

授業科目名:全学自由研究ゼミナール

曜 限:金曜日 5限

担当教員: 山口 光恒(先端科学技術研究センター)

対象クラス:1年文型 理系 2年文型 理系

○講義題目

地球温暖化と経済学

○授業の目標、概要

地球温暖化問題は人類が直面する最大の問題の一つである。しかしこの問題への対処は気象学、工学、法学、倫理学、国際政治学など幅広い学問領域が総力を挙げて取り組まない限り納得感のある解決策が得られない。こうした中において経済学もその一翼を担う学問である。

2008年からは京都議定書の約束期間が始まるが、京都議定書の機関は2012年までのわずか5年間であり、既に京都議定書以後の国際枠組みの議論が開始されている。従来の公害問題と異なり温暖化問題の対策には経済成長に影響を与えるほどのコストがかかり、しかも温暖化の責任を対策の負担を巡る南北問題が絡み、更に現世代の負担で将来の損害を防止するという意味で世代間衡平性問題もかかわってくる。

こうした中で大切なことは対策を極限まで実施することではない。対策を打てばうっほど環境的には良いが、反面でコストが急増する。こうした中でどこまで対策を打つのが最適か、これが重要であり、経済学はこの問題を正面から取り扱っている。とはいえ現実には国際政治の中で必ずしも最適でない点に目標が定まることも多い。この場合には所与の目的を最小費用で達成することが目的となる。なぜならこれにより別の対策に比べて節約できた資源を他の重要問題に振り向けることが出来るからである。この点でも経済学は多くの処方箋を用意している。具体的には税や排出権取引といった手法を比較検討することで最善の政策を選択する手助けが出来る。

この授業を履修することで環境経済学のエッセンスを学ぶことが出来ると共に、現実起こっている温暖化問題とそれに対する国際的取り組みが理解出来るようになる。

○授業のキーワード

環境経済学、地球温暖化、京都議定書、排出権取引、世代間衡平性障

授業科目名:全学自由研究ゼミナール

曜 限:金曜日 5限

担当教員:山口 光恒(先端科学技術研究センター)

対象クラス:1年文型 理系 2年文型 理系

○授業計画

授業内容はおよそ下記の通りである。但し学生の興味及び理解度により適宜変更もあり得る。

1. 地球環境問題の本質 経済学的側面から
(政策・手法)
2. 環境政策の目的費用と便益
3. 政府の介入とコースの定理
- 4-5. 直接規制と経済的手法の理論と実際
6. 排出権取引と自主協定
(地球温暖化)
7. IPCC第3次報告
8. 気候変動枠組み条約
9. 京都議定書
- 10 温暖化対策の究極目標と費用便益分析
- 11 ポスト京都議定書の国際枠組み
- 12 EU 排出権取引の評価
- 13 温暖化と技術の役割
- 14 予備日

○授業の方法

基本的に講義形式で行う。但し講義中に学生の意見を求めることがある。

履修学生は小生のホームページ (<http://m-yamaguchi.jp>) からレジメをあらかじめ打ち出して持参のこと。

また、国際会議への出席の後にはそこでの状況なども織り交ぜながら講義する。

○成績評価方法

レポートにより行う。内容は理解力のみではなく、自分でどのくらい考えたかで評価する。

○教科書

授業中に指示をする。

○参考書

授業中に指示をする。